

センセイコール (19)

23) これでいいですか？

どういう状況かという、スクリーンを使った操作説明を聞いたあと、それと自分で操作した結果が合っているかどうかの確認です。極端な話、次のようなことです。

先生「ここをクリックすると、こういうプルダウン (メニューや保存場所など、クリックして選択できるリストが表示されるもの) が出るので、その中のコレをクリックします。すると、画面がこう変わります。」(名前をつけて保存する場所を変更する場合など)

生徒「センセー、クリックしたらこんなもの (プルダウン) が出たんだけど、これでいいですか？」
「センセー、この (プルダウンの) 中の、コレをクリックするんですか？」
「センセー、クリックしたら、画面がこんなになったんだけど、これでいいんですか？」

といった具合です。一度にたくさん説明をしてしまうと、覚えきれない、というのは、特に低学年に多いということで、これは気をつけていますが、操作を一つ一つスクリーンに映して、各自それと自分の画面とを見比べて確認しながらみんなで同じように作業を進めようとしても、その「ながら作業」ができる子どもと、そうでない子どもがいます。

操作自体は難しいことを言っているわけではありません。何をするための操作 (クリックなど) か、コンピュータとどういう会話をする (画面の何に注意して見る) のか、順番に一つずつ説明を加えながら作業を進めていくわけですが、勝手な操作をしたために自分の画面が変わってしまって、周りとの歩調が合わなくなったり、説明のスクリーンを見ていなかったためにどこをクリックするかわからなかったり、おしゃべりしていて、肝心なところを聞き逃したり、と、一つの作業で全員がそろうのに、たいへんな時間がかかります。

今のコンピュータは、アプリケーションの操作性がだいぶそろってきて、一つができるようになると、他のアプリケーションでも応用が利きやすくなってきました。しかし、「できる」というのは、基本が「わかって」コンピュータとの会話が上手にできることで、決して自己流で何でもまかなえるわけではありません。パソコン室でのスキル授業では、新しいアプリケーションに向かったときに、自分で使い方が開拓できることを視野に入れて、個々のアプリケーション特有の使い方、にこだわった説明は極力しないようにしています。遊び道具としてではなく、コンピュータが真に「使える」道具にできるように、自分の力できちんと聞けるようにしていきたいと思います。